

会 議 録

会議名 (審議会等名)		第 1 3 回相模原市観光振興審議会				
事務局 (担当課)		環境経済局経済部商業観光課 電話 0 4 2 - 7 6 9 - 8 2 3 6 (直通)				
開催日時		令和元年 8 月 3 0 日 (金) 午後 2 時 0 0 分 ~ 3 時 4 5 分				
開催場所		相模原市立産業会館 4 階 中研修室				
出席者	委員	6 人				
	その他	-				
	事務局	9 人				
公開の可否		可	不可	一部不可	傍聴者数	0 人
公開不可・一部不可の場合は、その理由						
会議次第		1 開会 2 議題 (1) 第 3 次相模原市観光振興計画 (素案) について (2) 今後のスケジュールについて 3 閉会				

審 議 経 過

主な内容は次のとおり。

1 開会

2 議題（○は委員、 は事務局の発言）

内藤会長が議長となり議事を進行した。

（１）第３次相模原市観光振興計画（素案）について

事務局から説明した後、質疑応答を行った。

主な意見等

- 各エリアの基本方針をミクロ化してしまうと相模原市全体の観光のイメージが分かりづらい。またエリアが分かれすぎているとインバウンドに案内しづらいのではないか。

例えば、ハイキングならこのエリア、サイクリングならこのエリア、体験型観光ならこのエリアといったような分類がいいと思われる。

観光客が目的から入ったときに分かりやすいようなエリア分けについて検討していきたい。

- これまでの計画は、何を売っていくのか、何をポイントにしていくのか、という戦略性がなかったと思われる。戦略性をもって、この計画の意図をもっと明確にしていくべき。

- エリア別の考えにこだわる必要はないのではないか。これまでも地域別で連携しているはずだ。

- 全市的に観光を考えるのであれば、もう少し大きなエリアで考える必要があるのでは。全市的な方針や将来性を含めてエリアを位置づけるべき。

エリアの考え方については、本市は東京圏大回廊の高尾山・リニア地区に包含されているといったように、大きな目線での絵図等を検討していきたい。エリア分けの変更については、これまで各地区が培ってきた伝統・コミュニティ等があるため、担い手の思い等を考慮すると、手を加えることは正直難しいと考えている。各地区の計画は今後も継続していくと考えられるため、行政としてはそれを後押ししていきたい。

エリア別にやっていくといった発想から脱却していくべきでは。

地域別計画はエリア別計画を基に作成されている経緯もあるが、市全体の来訪者の流れ等を考慮していく必要があるとも考えている。

合併の経緯から地域間の連携が難しいこともある。市としての全体の流れのような大枠を示していくべき。また、決まった大枠は地域の観光協会にどんどんアナウンスしていくべき。

- 行政と観光振興は分けて考えるべきである。お客様目線が重要。
- これからの相模原市は橋本駅周辺が中心となって人が集まってくるはず。相模湖、藤野、橋本等の将来観光の中心と成り得るエリアからいかに人を引っ張ってくるかが重要であり、そのために二次交通の整備等を行っていくべき。

交通体系図等も検討していきたい。

補給廠一部返還地はどうなっていくのか

補給廠一部返還地は財務省の普通財産なので相模原市の土地ではない。財産を処分する際には、所管自治体のまちづくり計画を参考にすることである。これからの補給廠一部返還地のまちづくりについては、市民にアンケート等を実施していく予定であり、方向性については今後検討していくものである。

- P.3の計画策定の趣旨について、社会情勢の変化等もあり、前計画に比べて新しい要素が加わっている。無理に「前計画をベースに」といった文言を記載する必要があるのか。

修正する。

- P.22の強み・弱みについて、このページまでは客観的なデータが並んでいたのに、ここだけ客観的なデータではなく、並べ方も規則性がない。解説、前書きのようなものを記載した方がいいのではないか

- 強みはまだしも弱みというワードはいかがなものか。

表に見合った形での表現に修正する。

P.38の広域連携について、現時点で観光面の交流があまりない町田市を入れている理由は。

広域行政課の首都圏南西部国際都市群の創出プロジェクトにおいて、町田市との連携について記載があるため。

P.36の情報発信について、各種イベントに来場された方に話を伺うとポスターを見て訪れたという方がなかなか多い。将来に向けて電子での情報発信に転換していくことも重要であるが、紙媒体も需要があるはずなので併用していただきたい。

紙媒体、電子媒体を使い分けるのは、使用者側である。提供する側の行政は両方の媒体で発信していくべき。

紙媒体で何かを制作する場合には、電子媒体でも納品させる等の対応をしていきたい。

情報発信は、「誰が」「どのように」「どんな内容」で発信していくかが重要。

P.33に記載のある地域を支える人材が重要になってくる。誰がどこでそのような人材を見つけ出し、どこで活動してもらうかが問題である。地域型の観光振興を進めるにあたって、そのような人材が少なくなかなか進んでいないといった課題がある。

7月に行われた自転車ロードレースのテストイベントにボランティアとして参加したが、選手は目の前を一瞬で通り過ぎてしまい、今後、オリンピックのレガシーとしていくことは難しいのではと感じた。

指標の入込観光客の目標値を1200万人にした根拠は。

前計画の目標値である1500万人から、天候に左右されやすいイベント(300万人)を除いた1200万人としている。

前計画の指標でもあった観光消費額を今回の計画の指標に追加してもいいのでは。

検討する。

観光協会だけでなく、商工会議所等との連携も重要である。

神奈川県の入込観光客数調査は、相模原市が提出した数値が取りまとめられているとのことなので、それを算出する現場の方々はその数値を認識して、数値的根拠を持つべきである。

(2) 今後のスケジュールについて

事務局より令和元年度の計画策定に係るスケジュールを説明

当審議会における意見については、後日、修正案を各委員に送付し確認していただくこととし、この素案をもって答申とすることに決定した。

以 上

相模原市観光振興審議会委員出欠席名簿

区 分	氏 名	所属団体等		備考	出欠席
		名称	役職等		
学識経験者 ・ 専 門 家	内藤 錦樹	桜美林大学	名誉教授	会長	出席
		観光振興アドバイザー			
公 募 委 員	高橋 陽子	公募委員			出席
関 連 団 体	北村 美仁	(一社)相模原市観光協会	専務理事	副会長	出席
	大貫 幸雄	大島観光協会	会長		出席
	佐藤 泉	相模湖観光協会	会長		欠席
	関戸 昌邦	津久井商工会	会長		欠席
民間事業者	井上 康	(株)J T B 相模原支店	支店長		欠席
	高堂 智佳	東日本旅客鉄道(株) 橋本駅	駅長		出席
	福重 隆一	相模湖リゾート(株) (富士急行(株))	専務取締役		出席